



かわべ 川辺にトンボ道^{みち}があるって、ほんとう^{ほんとう}なの

トンボは、^{じぶん}自分のなわばりをパトロールする

トンボのオスは、メスが^{さんらん}産卵にやってくる^{おがわ いけ}小川や池などに、^{じぶん}自分のなわばりをもっています。そのなわばりに入ってきたメスを、ほかのオスにとられないため、パトロールするのです。アカネの^{なかま}仲間のように、なわばりをもたないトンボもいます。

ギンヤンマなどは、はば5～10メートル、^{なが}長さ30～40メートルものなわばりをもっています。そして、^{おな}同じコースを^{なんかい}何回も行ったり来たりして^と飛び、メスが^と飛んでくるのをまっています。この^と飛ぶコースを、トンボ道^{みち}とよんでいます。このトンボ道^{みち}を見つけて^ま待っていると、^{なんかい}何回も^と飛んでくるので、トンボをつかまえやすいのです。

^{じぶん}自分のなわばりに、ほかのオスが^{はい}入ってきたときは、^お追いかけ^{まわ}回し、^{はね}羽で^{たい}体あたりをして、^おなわばりから^た追い出します。

オス、メスがつながっているのは、メスをとられないため

メスがなわばりに^{はい}入ってきたら、オスは、しっぽの^{さき}先のかぎのようなもので、メスの^{あたま}頭の^{うし}後ろをつかんでつれていき、^{こうび}交尾し、メスとつながったまま^{さんらん}産卵の場所に^{ばしょ}飛び、^{さんらん}産卵させます。オスとメスが、つながったまま^{さんらん}産卵するのは、ほかのオスに、メスをつれていかれないようにするためです。

ヤンマの^{なかま}仲間ほど、^{たいりよく}体力がないトンボのオスは、まわりをよく^み見わたせる^は葉の上にとまったり、^{たか}高く^でつき出た^き木の^{えだ}枝の^{さき}先などにとまって、よく^み見える^め目で、なわばりを見張っています。（監修・中山 周平）

